

「稲わらすき込み方法等に係る情報収集」 調査結果について



備前県民局農林水産事業部
備前広域農業普及指導センター

1 目的

- 米麦農家から稲わらをすき込んだ場合の次作への影響を懸念する意見があった。
- そのため、これまで稲わらすき込みによる麦の生育への影響について調査を実施した。
- その結果、二毛作の麦において、部分的に苗立率が低下するなどの課題があることが分かった。
- そこで、実際に稲わらすき込みを実施している農家から問題点やメリットの聞き取りを行った。



2 情報収集の方法

- 岡山市の米麦農家（6戸）へ聞き取り調査
- 調査対象の経営規模は22～143haで、稲－麦の二毛作で栽培を行っている



3 調査結果

(1) 稲わら処理方法

(単位：%)

農家名	すき込み	すき込み + 分解促進剤	焼却	持ち出し
A	18	38	44	0
B	0	89	0	11
C	0	100	0	0
D	77	0	0	23
E	12	88	0	0
F	8	52	26	0
合計	13	72	12	3

3 調査結果

(2) すき込みの麦作への影響



農家名	苗立率 低下	湿害	作業性 低下	初期生育 悪化
A	●			
B	●	●	●	
C	●			●
D	●	●		
E	●	●	●	
F				
合計	5	3	2	1

3 調査結果

(3) すき込みのメリット

農家名	苦情 軽減	安全	土作り	天候	減肥	省力的
A	●		●	●	●	
B	●	●	●	●		●
C	●	●			●	
D			●	●		
E	●	●				
F	●	●	●			
合計	5	4	4	3	2	1

3 調査結果

(4) 焼却する（過去にしていた）理由

農家名	長稈品種	機材不足	手間	作業性低下	次作への影響
A	●	●			
B※	●	●			
C※	●		●		●
D※				●	
E※	●				
F			●		
合計	4	2	2	1	1

※は、過去に焼却していた理由（現在は焼却をほとんどしていない）

4 まとめ

- 今回調査を行った大規模米麦農家（6戸）の85%の水田ですき込みを行っていた。
- すき込みは、麦作への影響も見られるが、稲わら焼却による苦情の軽減や安全面、土作りなどのメリットも多いことが分かった。
- 引き続き、すき込みによる安全面等の効果を啓発することで、稲わらのすき込みを推進する必要がある。